

PART 25

～学校で露出命令⑤～

《高校生、という言葉にさっと緊張する店内》

「しおりって店員はいるけど、高校生はいないわ」

「ポニテの子にスク水で客引きさせてましたよね」

「涼川栞ちゃんもポニテなんですよ」

《店の奥で四つん這いのまま息を潜める栞》

「これ、入れてもいいかな？」

「先っぽだけならいいですよw」

「駄目え！ん、んぐうう！」

「栞ちゃんの悲鳴だ！」

「やっぱり中にいるんでしょ！」

「駄目よ。高校生は店内に入れません」

「この辺がクリちゃんかな？」

「く、くうううっ」 (声を出しちゃダメっ)

「絶対中にいる！」 「栞ちゃん、助けに来たよ！」

「ごら、中に入るな！」 「警察に訴えますよ？」

「ごっつちに来るぞ」

「顔は隠してやる」

「何か着させて！」 「これとこれで、

「口を開ける」 「ん、んぐうう」

《制服姿の4人の男女が店の奥に入ってくる》

「きゃっ!」「え、裸!」「うわっ!」

「この子が店員のしおりちゃんよ」

【結花】「なんでこんな格好?」「仕事だからよw」

「……」(クラスメイトの前で、私、裸……でも、声を出したり恥ずかしがったりしたら私ってバレちゃう)

「栞ちゃんに似てる、よな?」「ああ、そっくりだ」

「栞ちゃんでしょ、どうしてこんなことしてるの?」

《黙って首を振る栞》

「違うわよ。栞ちゃんにわざと似せてるのよ」

「え、どういふこと?」

「このコ、20過ぎなのに、ミスS学園の涼川さんに似てるから、わざとポニテにしてリボン付けてるのよ」

「つまり、営業用に似せてるってこと?」「呆れたあ」

「なーんだ」 「涼川が全裸でバイトする訳ないしw」

「もういいかしら?」 高校生は早く帰りなさい」

「一応、顔を確認したいです」 「俺も!」「確かに」

「この子は顔バレなしが条件なの。だから無理」

「だけど、栞ちゃんの名誉も毀損してますよね？」

「S学園のリボン無断使用も問題ですよね？ 学校や

警察に相談されたら困るんじゃないですか？」

「……」(いやっ、警察や学校に相談されたら、私……)

「困ったわねえ。そのくらい見逃してくれない？」

「じゃあこれで証明すれば？」 「はい、しおりちゃん」

「えー、なんですか、それw」

《マリに囁かれ、乳首ローターを受け取り、乳首につける栞。ローターを手に持ち、躊躇う》

「この子の特技、ローター3つでイけちゃうのよ」

「もしかして、乳首とアソコにローター付けて、リモート操作で絶頂しちゃうってこと？」

「確かに栞ちゃんにできるわけないなw」

「ね、証明になるでしょ？ あなたたち、リモコン操

作してみる？」 「やります！」 「嬉しそうねw」

(そ、そんな！ 絶対に嫌あ！)

《自らローターを秘部に挿入させられた梨》

「梨ちゃんが絶対できないポーズさせようよ！」

「じゃあ、M字開脚！」 「確かに絶対無理w」

「……」 「お客様のご命令には従わなきゃダメよ」

（お願い、見ないで……） 《ゆっくり脚を開く》

「焦らしプレイw」 「さすがプロだねw」

「おお、ぱっくり！」 「目は閉じちゃダメ！」

（ああ、全部見られてる……）

「ミスS学園の涼川梨ちゃんが衝撃ポーズw」

「ちよつと、梨ちゃん本人じゃないからねw」

「まあ、似せてるんだし、本物ってことにしようよ」

「今日は梨ちゃんになりきってもらおう！」

「クラスの男子にアソコ見られてどんな気持ち？」

（言わないで！ もういやあ）

「脚がカタカタ震えてるw」 「演技うまいねw」

「3つのローターはアプリで操作できますので、皆様、こちらからダウンロードしてください」

「へえ、このアプリで？」 「ママを押すと？」

「く、くうらー！」 《左右の乳首ローターが振動》

「声も栞ちゃんにそっくり！」 「まさか本人？」

「クラスの美少女をリモートローター責め、いいねえw」

「じゃあこつちを押すと？」

「ひ、ひいっ！」 《腰をビクビク震わせる栞》

「全部押すと？」 「あ、ああっ！」

《3点責めに栞が口を開いて悶え、バイブを落とす》

「あ、だめっ…！」 (声を出しちゃダメ！)

「口まで栞ちゃんっぽい！」 「でも本人じゃないな」

「当たり前でしょ」 「栞ちゃんわけないじゃない」

(お願い、気づかないで！)

「このスライダーで強弱やリズムも調整できますよ」

「よし、栞ちゃんをイカせる最適パターンを探そう！」

「おもしろそうw」 「これは？」 「く、くうら…！」

《3つのローターでさんざん弄ばれ、5度目の絶頂で失神してした栞を見下ろす同級生たち》

「気持ちよさそうに寝ちゃってw」「ビーチでも素っ裸で寝てたよね」「生で見ると百倍興奮する!」

「それじゃ、これも御開帳!」

《アイマスクをずらされ、素顔を晒される栞》

「はい、記念撮影!」

「マジやったらローター出てくるよね?」

「あそこから半分出て止まった!」「意地悪ねえw」

「完璧にアプリマスターしたなw」「栞ちゃんがどこで感じるかもばつちり覚えたよw」

「…ん、んん…え?」《うつすらと目を開ける栞》

「おひと」「マジっつてこと」「あ、あ、ああ……」

「あっさり失神w」「Gスポット責めに弱いねw」

「…ん、んん…えっ?」 きゃあっ

《失神から醒めると同時に身体を持ち上げられた栞》

「やっと起きた?」 記念撮影タイムよ

「え、写真はちよつと…あ」 《慌てて口を閉じる栞》

「え、写真ダメ?」 「嫌なら言ってくれば」

「…」 (本人とばれなければいいんだから…)

「はい、撮りまーす。みんな笑ってー」

(こんな格好で写真なんて、いやああっ)

「うっわ、すっごい格好!」

「二つの穴丸出しでよく笑えるねw」

「これが本物の栞ちゃんだったらしいのに」

「無理言うなよw」 (大丈夫、バレてないわ…)

《突然、秘部の中のローターが振動し始める》

「え? あ、あっ、ああんっ」

「どうしたの、栞ちゃん？」

「急に悶えないでよw」 《スマホを弄っている》

《Gスポットを狙う振動がさらにリズムミカルになる》

「あ、あんっ！ だめえっ、と、止めてえ」

「何を止めるの？」 「はつきり言ってくれないとね」

「栞の、おま○この中のローターを止めてください！」

「栞ちゃんに本当になりきってるねw」

「ごうすると出てくるかな？」

「だめえっ、は、はううっ」

《ローターが膣内を抉りながら移動し膣口付近で停止》

「……ここまでね。あとは自分で出して」

「腰を振ってあげるよ」 「ほら、栞ちゃんも振って！」

「え、そ、そんな… ああんっ、あっ、あっ」

《ローターから逃れようと腰を振り出す栞》

「あ、あっ、ああ…」 「よし、出たー！」

「栞ちゃんのローター産卵ショーw」 「しかも失神w」

「すごいーいw」 「じっくり動画に撮りましたよ」

《再び失神した栞がようやく目を覚めます》

「やっと起きたね」 「確かに栞ちゃんとは別人ね」

「本物だったら全裸M字で産卵シヨ―は絶対しないしW」

「…あの、何か服をください」 (みんな、早く帰って!)

「それはいいんだけど、その前にリクエストみたいよ」

「最後に、栞ちゃんっぽく挨拶してほしいな」

「え、挨拶、ですか?」

「なりきって、こんな風に言つてよ…」 《栞に耳打ち》

「…はい…」 (西川くん、ひどい)

《全裸でダブルピース、ローターとバイブを持つ栞》



「私、S学園2年1組の涼川栞は、学校では優等生ですが、実は大勢の人に恥ずかしい姿を見られると興奮しちゃう、変態です。今日は、セクキヤバでアルバイトをして、同級生の男子の前で、全裸M字開脚をして、乳首ローターとおま○このローターで何回もイッチャつて、とつても気持ちよかったです!」

「あはは、最高!」 「本物だったら店がつぶれるわW」

「栞ちゃんバイバイ!」 「また明日学校でね!」

「明日会ったら興奮しそうW」 「変な目で見るなよ、本

物は清純なんだからW」 「本物だったら退学でしょW」

《同級生4人がようやく退店》

「お疲れ様。学生さんたちは納得してくれたみたいよ」

「はい…では、スクール水着を返してください」

「はい、どうぞ」

《急いでスク水を着る栞。しかし着てから驚愕》

「こんなの、ひどいです!」《両手で身体を隠す》

「嫌なら素っ裸で帰ることね」

「そ、そんな…」

「まずは手を後ろで組んで、皆様によく見せなさい」

「はい…」(ひどすぎる、こんなの)

《穴あきスク水に大喝采の店内》

「あはは、よく似合ってる!」 「変態優等生さんw」

「それで学校の授業受けなよ」 「男子が喜ぶよw」

「結局、お友達から1円も稼げなかったし、あと、路上で駄目にした制服も弁償金に加算させてもらっわよ」

「そ、そんな…もう、許してください」

「じゃあどうやって返すつもり? 合計30万だけど」

「30万なんて、すぐには無理です。少しずつ…」

「待てないわ。1週間以内に返してくれないと」

「では、どうしたら…!」

「大丈夫よ。あなた、須藤さんと知り合いなのよね?」

《マリがスマホをかざし、スピーカーをオンにする》

【須藤】『よう、ずいぶん楽しいバイトしてるなw』

「須藤さん!」 (あなたの命令のせいでしょ)

「須藤って、カメラマンの?」 「すごいじゃん」

「あなた、須藤さんに撮ってもらってるんでしょ? ウチのお客様にもそれを見せてくれれば、弁償金分はみんなで負担してくれるって」

「学校で撮影するんだよね?」 「応援するよー」

「ありがとうございます…」

『どんな格好で学校に行くのか、言ってみろ』

「はい…ノーパン・ノーブラで行きます」 「おおお!」

「あと、ウチのお客様からのリクエストにも応えてくれるわよね?」 『ああ、無理のない範囲でだけだな』

「この格好でプールの授業は?」 「そりゃ無理だろw」

「わかったら、笑顔で皆様に…挨拶!」

「…皆様、ご支援ありがとうございます。明日からは、学校でエッチな格好をたくさんしますんで、よろしくお願ひします!」 (何言ってるの、私……)



《常連客に貸してもらった大きめのジヤケットを羽織ってなんとか帰宅した栞。帰宅後に、早速支援客たちへのご挨拶を指示されている…》

「お客様、本日は大変ありがとうございました。涼川栞、皆様に裸を見てもらって、触ってもらって、いくところまで見てもらって、とっても気持ちよかったです」

《鏡に向けてダブルピースする栞》



「この水着、エッチに加工していただいても嬉しいです。」

もし、明日からノーパンノーブラでなったり、皆様のご指示に逆らった場合には、この格好で学校の授業を受けることを誓います…どうぞご支援、よろしくお願いいたします」(動画は保存できない仕組み、って本当よね…それに、破滅するような命令は絶対しないって、最後に約束してもらったし)